2024 年度
常磐大学海外研修（タイ）報告書

研修先：チェンマイ・ラチャパット大学

Chiang Mai Rajabhat University

研修期間：2025 年 2 月 14 日～23 日

研修日程表

日 （曜日）	Morning　（午前）	Afternoon（午後） &　Evening（夕方）
2/14 **（金）**	**11:45:** 成田発　*タイ航空（TG643）	**17:05:** バンコク着 **19:05:** バンコク発　*タイ航空（TG120） **20:25:** チェンマイ着 **21:30:** ホテルチェックイン　（ビアンブア マンション）
2/15 **（土）**	**9:00-12:00:** タイ語初級クラス	**12:00-13:00:** CMRU 学食でお昼 **13:00-17:00:** エレファント・サンクチュアリー
2/16 **（日）**	**9:00-12:00:** ワット・プラタートドーイステープ（お寺）	**12:00-13:00:** CMRU 学食でお昼 **13:00-16:00:** 地獄寺 **17:00-19:30:** ストリートマーケット
2/17 **（月）**	**8:30-9:30:** CMRU 理工学部キャンパスへの移動 **9:30-12:00:** タイ料理体験	**13:00-15:00:** ソープカービング 彫刻刀 体験 **16:30～:** 自由時間
2/18 **（火）**	**9:00-10:00:** CMRU 人文社会科学部長面談 **10:00-12:00:** CMRU 附属小学校訪見学	**13:00-15:00:** タイダンスのレッスン **15:00-16:30:** バディーとの文化交流時間 **17:00-18.30:** ムエタイ（タイボクシング）体験 **19:30:** バディーと夕食（タイ式焼肉）
2/19 **（水）**	**8:30~:** メーカンポン村への移動 (温泉地で昼食、お寺参り)	**15:00~:** メーカンポン村でバディとの自由時間、夕食 バディと「ホームステイ式」の宿泊
2/20 **（木）**	メーカンポン村で朝食 **9:00~:** チェンマイに向かう	**12:00-13:00:** CMRU 学食でお昼 **13:00-15:00:** プレゼン発表の準備、ダンス発表の練習時間 **15:00-18:00:** 調べ学習のプレゼン発表、タイダンス発表、修了証式、送別会
2/21 **（金）**	**6:30:** ホテル　チェックアウト、空港への移動 **9:25:** チェンマイ発　*タイ航空 (TG103) **10:50:** バンコク着 **12:00:** ホテルチェックイン（レンブラントホテルバンコク）	**13:00:** 「サイアム・パラゴン」で昼食、買い物 **16:00:** 「ワット・ポー」（お寺） **19:00:** 「アイコンサイアム」で夕食、夜景
2/22 **（土）**	**10:00:** ホテル チェックアウト **11:00:** 「ワット・アルン」（お寺）	**13:00:** **船で**「アイコンサイアム」に移動し、昼食や買い物 **17:00:** 空港への移動 **22:30:** バンコク発　*タイ航空 (TG640)
2/23 **（日）**	**06:20:** 成田着、解散	

Thailand Study Abroad Report #1

人間科学部　心理学科　2 年

1.　はじめに

私がタイ研修に参加しようと考えたきっかけを 3 つ紹介する。1 つ目は，学生のうちに海外へ行くことを親や知り合いから推奨されていたからだ。2 つ目は，趣味でグラフィックデザインの作例を調べていたときにタイのデザイナーの色使いやあしらいの使い方が印象に残っていたからだ。最後に，タイには地獄寺と呼ばれる地獄を再現した建造物があることをインターネットで知り，実際に見てみたいと感じたからである。その他にもタイ研修にはバディが行動をサポートしてくれると説明を受けていたので安心感があり，参加を決めた。

2.　事前研修の内容

事前研修の内容については全 5 回を大まかに説明する。第 1 回では顔合わせと個人の学修テーマを深めた。第 2 回，3 回では日程表を確認し滞在するホテルや大学についての説明を受けた。旅行会社の方とチェンマイ・ラチャパット大学からの留学生から話を聞く機会もあり，旅行会社の方からは機内持ち込みの注意点や海外全般における危険としおりの最終確認を説明された。留学生は PM2.5 の危険性についてや現地の大学生はどのように過ごしているか，日本とタイの相違点について教わった。第 4 回，5 回ではバンコクでの予定を検討したり昨年タイ研修に参加した学生から話を聞く機会があった。特に同じ日本人からタイ研修の話を聞くことができたのは準備の面でとても助かった。

3.　研修中に調べたこと

私は学修テーマを地獄寺に決めた。地獄寺とはタイ各地に全部で 70 以上存在する立体像を用いて地獄の風景を表現し、地獄を追体験できるような寺院のことである。地獄寺の目的は教義を老若男女問わず広めることで、簡単に述べると「悪いことをするとこんなに恐ろしい場所に来てしまう。それを避けるために仏教の教えを守れ。」と伝えることである。特に調べたいポイントを地獄寺がどのように機能しているか，地獄寺が存在しない日本で育った私から見てどのように映るのかに定めた。調査方法は実際に地獄寺に足を運び，タイにしか存在しない地獄の概念や建造物の地獄の様子が何を伝えようとしているのか推察することだ。主な調査方法は地獄寺内部の案内板と建造物の観察である。案内板の内容はバディが説明してくれた。建造物の観察では、特に地獄の様子を表現した彫刻に焦点に当て観察した。写真 1 は地獄の門を模した建造物である。両脇には巨人がおり，罪人を見張っている。地獄の門以外にも地獄寺には巨人が多く登場しており，日本での獄卒として用いられる場合の鬼のような役割をしていた。巨人は「ヤック（夜叉)」と呼ばれる想像上の生き物である。ヤックのほとんどは日本の鬼のように大きい牙があり剣などの武器を携えている。しかし日本で共有されている恐ろしいイメージや昔話の悪者といった役割ではなく、魔除けの守護神特に王様を守る正義の神様の一員として考えられている。地獄寺内部

には地獄のみならず極楽を模したエリアも存在した。そこでヤックは大仏（のような彫刻）の周囲に並べられており、バディはその様子を「神様から教えを教わっている」と私に説明してくれた。ここからは私の推察になるがヤックは正義を司る神であるために正義の制裁を与えるために地獄で罪人を罰する役割を地獄寺で与えられていると考えた。日本とタイで最も異なる地獄の概念は，写真 2 のブレイトである。ブレイトは手が異常に大きい地獄生まれの生き物で，両親を殺したり傷つけた者に制裁を与えるために地獄から私たちの世界にやってくる。また，僧侶が恋愛をした場合にもブレイトは制裁を与える。タイ国内でブレイトがどれほど認知されているかを裏付ける統計はないが、バディたちは私にブレイトの説明をしている間うなずいたり「正しい」と言っていたた。そのためおそらく若い世代には共通認識としてブレイトは存在すると考えられる。

写真 1　地獄の門

写真 2　ブレイ

4.　現地での交流活動

バディとして活動してくれる学生は 1 人につき 1 人であると聞いていたが，実際には 1～3 年生までの学生のうち都合がつくものがバディとして活動していた。そのため，日によって顔ぶれも人数も異なっていた。バディは言語やプログラム進行の面で手厚いサポートを行うだけでなく，私たち常磐大学の学生と積極的にコミュニケーションをとろうとしてくれた。タイで何が流行しているか，スラングやお互いの好きな音楽やゲームを紹介し合ったりすることができ楽しい時間を過ごさせてくれた。バディとは食事を一緒に取る機会も多く，プログラム内ではチェンマイ・ラチャパット大学の学食やタイ料理体験，メーカンポン村でのホームステイ先，ナイトマーケットなどで食事をした。それ以外の自由時間でも現地の食べ放題やレストランに大勢で出向き，会話を楽しみ食べ物の違いに驚きながら食事をすることができた。

写真 3　学食

写真 4　食べ放題

5.　まとめ

研修前から興味を持っていた地獄寺に足を運ぶことができたことはとても嬉しかった。地獄寺の建造物の多くは道徳と因果応報を説くものだったため，根本的な教えを強調し理解を進める役割を持つ意味があった。また、今回訪れたものとは異なる地獄寺に足を運びたくなった。タイでは国民の 9 割以上が仏教を信仰しているというデータを確認した。機会があるならば成長過程でどのように仏教の教えに触れていくのかを本やインタビューを通して知りたいと感じた。今回地獄寺に訪れた経験を活かして、可能なら日本とタイで地獄のイメージを書き出してもらう形式で違いを観察したいと考えた。タイ研修は私に普段意識することがないものも全く違う異国であること，バディとの素晴らしい時間を通してとても実りのある時間を過ごさせてくれた。学生のうちに海外に行けと言われていた理由がなんとなくわかったような気持ちになった。

Thailand Study Abroad Report #2

人間科学部　コミュニケーション学科　3 年

１．　はじめに

私がタイ研修に参加したきっかけは、1 年生のときにフィリピン研修を経験したことでタイではどのような文化があるのかを比較してみたいと思い、参加を決めた。今回のタイ研修では日本語を学んでいるタイの学生と交流することがメインだったため、日本語教師を目指している私にとって、どのように日本語を学んでいるのかを知る良い機会であると考えた。また、私の卒業論文のテーマとして考えている他国のセクシャルマイノリティに対する考え方やジェンダーについて、実際に行って話を聞くことは必要であると考えたため調べるに至った。

２．　事前研修の内容

事前研修では、タイについてどのようなことを調べてみたいかテーマを設定し、それぞれ現地に行ってから調べ学習ができるようにテーマに関連した場所を決めていく作業を行った。私の調べ学習のテーマは、日本とタイの宗教観の比較とセクシャルマイノリティの考え方についてである。日本はひとつの宗教があるわけではなく、いろいろな宗教が合わさっている中でとりわけ仏教の信仰者が多いが、タイでは仏教が信仰されている。また、タイではセクシャルマイノリティに寛容である国として同性婚が認められている。以上のことから、日本とタイではどのような違いがあるのかを実際に行って調べてみたいと思った。

３．　研修中に調べたこと

はじめに日本とタイの宗教観についてである。日本の宗教観は、自然物である木や川、岩などに神様が宿るとされており、自然に感謝していくことで自然から多くの恵を得ることができると考えられている。タイの宗教観では、国民の 9 割が仏教を信仰しており、仏になるための教えのもと、男性は一生に一度は家を出て修行を積むことが一般的とされている。そのため、タイの法律には宗教に関することが多くある。日本とタイの宗教観に似ている点には、お祈りをするお寺などを大切にしている点があげられる。しかし、異なる点では、タイではお祈りする順番を大切にしていたり、また家にサーンプラプームという小さな寺が必ずあるため、より暮らしに根付いていると知ることができた。

（ワット・プラタート・ドイ・ステープ）

（サーンプラプーム）

次にセクシャルマイノリティの考え方について、私はバディになってくれた女性にインタビューを行った。インタビューする中で特に注目した内容では、大学で友達とセクシャルマイノリティについて話し合うことはあるという点であった。日本では、セクシャルマイノリティに関してやっと広まってきてる段階であると私は認識しており、大学内でも授業では取り上げていても、授業外では友達とセクシャルマイノリティについて話すことはほとんどない。タイでは、同性婚を認めていることもあり、異なる考えであっても尊重する姿勢があるのだと感じた。しかし、多様性は認めているが若い世代と年齢が高い世代では考え方が違うことも多くあると分かった。

４．　現地での交流活動

タイで交流したバディたちは、今回一人ずつ付いてくれる形ではなく、多くのバディたちが一緒にチェンマイの観光名所を案内してくれた。今回、バディが一人ではなかったが、そのため多くバディたちと交流することができて、とても新鮮に感じた。ラチャパット大学の学食は、出店のように多くの店舗が入っており、毎日のご飯が楽しくなるような工夫があると感じた。メーカンポン村でのホームステイでは、寝る前にバディたちとゲームをしたり、日本語やタイ語を教え合ったりと、とても充実した交流であると感じた。また、ホームステイ先のお母さんの料理はどれも美味しく、貸してくれた部屋には家族写真がたくさん飾られていたこともあり、温かい雰囲気で緊張がほどけたことを覚えている。短い日数ではあったが、ホームステイを受け入れてもらえてとても嬉しく思った。

（ホームステイ先）

（大学の学食）

５．　まとめ

タイ研修では、調べ学習として「日本とタイの宗教観の違い」と「セクシャルマイノリティの考え方」について述べる。日本とタイの宗教観の違いには、お寺でお祈りをする順番を大切にしていたり、タイの人たちは生まれた曜日から占いに使われていることが分かった。セクシャルマイノリティの考え方では、大学の友達と話すほど身近なものであり、異なる考えであっても尊重することの大切さをバディのインタビューを通して学ぶことができた。また、学生の日本語を学ぶきっかけはみんな様々で、言葉の意味の違いなどを積極的に聞いてくれたことで日本語母語話者では考えつかない日本語の面白い使い方などを新たに知ることができた。タイ研修を通して、タイという国のセクシャルマイノリティの多様な考えについて知り、理解を深めていけるように、これからも現地の学生と交流し続けたいと考えた。

Thailand Study Abroad Report #3

総合政策学部　総合政策学科　3 年

1.　はじめに

私がタイ研修に参加したきっかけは、学生の時に海外へ足を運んでみたい、初の海外は個人で行くのではなく安心な大学のプロジェクトで経験をしたいと考えていたので参加した。また元々参加する予定であったフィリピン研の選考に落ちてしまったが同時期にタイ研修の応募ができるということだったので気持ち新たにタイのごはんや景色を楽しむぞという気持ちで参加した。

2.　事前研修の内容

私は絵本プロジェクトというプロジェクトを行っていてプロジェクト関連の調査にしようかと考えたがプログラムや活動予定を聞いた際に難しそうであると判断し、趣味のサッカー観戦から広げてタイのスポーツについて日本と比較しながら調査をしたいと考えた。研究方法としては現地のテレビや新聞、雑誌においてどのスポーツが多く割合を占めているか調べる方法やバディに聞き取り調査を行うこと、ムエタイ体験のプログラムがあるという事であったので実際に体験してどうだったのかなどの方法を事前に予定していた。（日本でのスポーツ報道の割合は野球、サッカー、バスケットボールの順番であった）また、名鉄観光さんによる旅のしおりの説明、準備物について、様々な注意点を教えていただき初めての海外ということもあったのでとても助かった。去年の研修に参加した先輩が写真を基に様子を教えてくれてもいたので研修のイメージがしやすかった。留学生のアーフさんからも PM がすごいとも教えていただいたおかげで個人としては十分な対策が取れていたような気がする。

3.　研修中に調べたこと

研修中に調べたこととしては、デパート(MAYA)に行った際にスポーツ用品店のモノの価格を見ること、タイではスポーツ配信アプリ「DAZN」のホームにどのスポーツが一番上に表示されるのか、どのようなスポーツが見れるのかなどを主に調査した。テレビや新聞、雑誌を用いての調査も行いたかったがチェンマイ滞在時のスケジュールがほぼ毎日夜遅くまであったためテレビを見る余裕や、ニュースをやっている時間帯ではなさそうであったため十分な調査ができなかった。上記に記した調査方法を用いることによって、主に「スポーツ用具の値段は日本と変わらない」「タイではボクシング（ムエタイ）がやはり１番人気である」の２つの調査結果を得ることができた。

まず１つ目の「スポーツ用具の名団は日本と変わらない」については、自分がやっているスポーツであるバドミントンのラケットの値段を比較した。デパート(MAYA)のスポーツ用品店でバドミントンのラケットを見た際、置いてあるラケットの値段の最高値は日本円に換算して約２万円ほどであった。この値段は日本のスポーツ用品店に置いてあるラケッ

トの最高値と変わりない値段であった。サッカーボールやバスケットボールの価格も日本円に換算してみたら日本と大して違いはなかった。(写真として記録を残すのを忘れた。)

２つ目の「タイではボクシング（ムエタイ）がやはり１番人気である」については「DAZN」のホーム画面からとても伝わった。またバディのティーさんもボクシングが一番人気であると教えてくれた。タイ観光政府によると、タイの国技であるムエタイは立ち技世界最強格闘技タイ式キックボクシングと言われている。起源は戦争だが 1929 年にグローブ着用がルール化される、リングで戦うようになってから現在のムエタイの形になったそうだ。今では全世界で強さが知られ、人気を集めているそうだ。私の好きなサッカーは追加料金で視聴可能となっておりそこまでメジャーではなさそうと感じた。

絵本プロジェクト↑　　↑ ムエタイ体験 ↑

4.　現地での交流活動

チェンマイラチャパット大学の日本語学科の学生たちがバディとなり約７日間プログラムや日常生活の手助けをしてくれた。大学内の食堂の値段の安さに驚いたり、象ととても近い距離で餌やりなどをしたり、タイの交通事情を実際に見たりなど日本では考えられない体験ができた。食堂やナイトマーケットで食べ物やお土産などを買うときも快く通訳をしてくれたり気にかけてくれたりしてチェンマイにいるときは特に困ったことはなかった。簡単なタイ語も挑戦してみたりもした。バディに 20 バースはチェンマイ弁で「サオバーイ」ということも教えてもらった。使う場面はこの先あまりなさそうだが一生忘れないだろう。もう一度行きたかったなと感じたプログラムはやはりナイトマーケットである。少しの時間しかなかったのですべてを見て回れなかった。後日バディのウィナーに射的のような出店の写真を見せられ本当にもう一度行きたいなと心から思った。４日目に行ったソープカービング教室は本当に悔しい思いをした。手先が器用かと言われれば不器用であるので途中で投げ出してしまおうか迷ったほど難しかった。最終的に先生からあなたにあげると先生作の作品を渡されたときにはもう少しで涙が出てしまいそうになるほど悔しくなった。ただ一つ文句を言っていいのならば先に完成品を見せてほしかった。メーカンポン村で自然を満喫した時間もとても良い時間であった。メーカンポン村で一番印象に残っていることはやはりバディのウィナーがカフェで注文せずに席にいていいのか心配するケビン先生に「大丈夫ですよ、心配しないでください」と日本語勉強中らしい日本語を聞けたことだ。私も英語の勉強をもう一度頑張りたいと思った。特に英語でコミュニケーションをとれるようになりたいと思った。

左からナイトマーケット、ナイトマーケットにてマッサージを受けている様子、販売されていたソープカービングの正解、大好きになったカオソーイ

5.　まとめ

研修を振り返ってまず思うことは初めての海外がこのタイ研修でよかったなと改めて感じた。空き時間がないスケジュールでバディとたくさん交流することができて海外に友達を作ることもできた。初めて見るモノや文化を体験することで自分の知見も広めることもできた。研究内容にスポーツを選んだのだがいまいち良い研究結果が得られなかった。交通に関する内容を調べたほうがおもしろい研究結果が得られたのではないかと現地で過ごす中で感じた。また日本の企業や食べ物を見ることも多く、なぜタイに日本のモノが多くなっていったのかの歴史を調べたいとも感じた。報告書に書きたいことはまだ沢山あるのにと感じるほど濃密な研修であった。今後の人生に活かしていきたいことはもちろんのこと、機会があるなら別の研修プログラムにも参加してさらに知見を広めたいと思った。

Thailand Study Abroad Report #4

総合政策学部　総合政策学科　4 年

1.　はじめに

私がタイ研修に参加したいと思った理由は、去年フィリピン研修に行き国の文化や交流を通して私にとって大きな経験となり海外に対する興味がより増えたからである。またフィリピン研修では、バディ制度があり現地の学生とより親密な関係になることができた。また会いたいと思う友達ができたことがとても嬉しかった。タイ研修でも同じバディ制度があったので魅力を感じた。私は 4 年生なので、海外研修に参加するか迷っていたが、学生生活でしか経験できない研修プログラムにまた行きたいと強く感じ行くことに決めた。学校の研修プログラムは、旅行とは違い、現地の学生と交流する経験が自分への成長に繋がると思う。私は現地の人たちと友達になり研修後も友達として関わって行きたい思ったからこのタイ研修に参加した。

2.　事前研修の内容

タイのファッションについて調べ学習を行うことを決めた。日本とタイのファッションは大きく異なると予想しているので、価格や素材、柄などに着目して下調べを行った。また比較材料として日本のファッションについても調べ、現地に行った時に比較できるようにした。他に、自己紹介のスライド作成や発表練習なども行った。

バンコクにいく予定だったのでバンコクの観光地を調べた。話し合いの中で、様々な観光地がでたが私が特に気になっていたのは、Icon Siam というショッピングモールだ。ここは、ショッピングモールの中で水上マーケット風の屋台が楽しめる。値段もリーズナブルであり清潔で沢山の出店がある。他にもショッピングモールの中に滝が流れていたり、屋上から外の景色が楽しめる場所でもある。事前研修で調べたことで、より研修が楽しみになった。

3.　研修中に調べたこと

研修中に主に調べたこととしては、訪問先のチェンマイラチャパット大学の学生にインタービューを行ったり、ナイトマーケットやショッピングモールなどに訪れ現地の人の観察、お店の価格や素材について調査した。学生インタービューでは、あまりファッションには興味が無いと答える学生が多かった。しかし、学生のファッションや現地の人のファッションを観察してみると、日本の夏のファッションと共通点が多くあり、研修前で予想していたものとは異なった。ただし、民族衣装の着用頻度や流行のスタイルには違いがあり、気候や文化の影響を受けていると考えられる。

日本との共通点は、T シャツやシャツなど涼しく快適に過ごせる服装の人が多く見られた。中には、日本のアニメの洋服を着ている人も見かけた。日本のアニメがタイでも愛さ

れていることを実感した。バディ達も日本のアニメが好きな子が多くアニメの話で盛り上がった。

日本と異なる点は、民族衣装の着用頻度だ。タイの観光地や屋台などでも洋服が売られていた。その中でも特に多く観光客からも現地の方からも愛されている洋服が 2 種類あった。

1 つ目は、チェンマイモン族民族衣装である。モン族の服は、刺繍が特徴的で日本の和服にはないデザインをしている。刺繍には、家族の幸福や健康、家内安全、祖先や精霊への尊敬の念などが込められている。また、モン族の生活の様子や歴史、文化を伝えてきたという特徴もある。そのような民族衣装が観光地のお店に沢山売っていて日本とは違う文化を感じることができた。また、デザインもオシャレでタイの伝統的なファッションを感じることができた。価格だと日本円で 1500 円ぐらいの値段で日本の和服と比べるととても値段が低いことが分る。

※モン族民族衣装

2 つ目は、タイパンツ(ガンケンシャン)である。このパンツは、元々タイの伝統的な衣装として誕生していた。農作業や日常生活での快適さを追求して作られたこのパンツは、ゆったりとしたデザインと軽量な生地が特徴だ。これにより、暑い気候の中でも涼しく過ごすことができるため、長い間タイの人々に愛されてきた。タイパンツは、非常に快適で

動きやすいため、ヨガやリラックスしたい時の服装として人気が高まっていてる。また、素材は綿や麻などの天然素材を使用していることが多く、環境に優しいエコファッションとして注目されている。価格も日本円で 500 円ぐらいの値段で日本では考えられないほど安いパンツである。

タイは日本とは違い四季がない。そのためファッションの種類が日本よりも少なく日本のように個性あふれるファッションをしている人を見かけることが無かった。しかし、気候や文化の影響もあり、ラフで快適な服装の人やタイの伝統的な服を着ている人が多くいた。私は、研修を通してタイ人の母国愛をファッションから感じることができた。

4.　現地での交流

事前研修では、私達 1 人 1 人にバディがつくという話だったが、今回の研修ではバディが決まっていなく、沢山のバディ達と交流し活動を行った。バディが決まっていなかったこともあり、沢山のバディ達と話すことができて、みんなと仲良くなれたと感じた。バディ達は朝から夜まで私達とともに行動してくれて、とても優しく面白いバディ達だった。また、ナイトマーケットに行った際は現地でしか食べられない物やタイマッサージなどを体験した。バディと一緒に行動することができてとても楽しかった。屋台や学食での買い物の時は、私達の代わりに注文をしてくれた。タイのおすすめのご飯や市内案内、お土産など私達に対してのおもてなしを沢山してくださってとても楽しいタイ研修生活を送ることができた。旅行だけでは絶対に経験できない凄く濃い経験になった。

5.　まとめ

このタイ研修を通して海外への興味がさらに深まった。また、研修でしか経験できないプログラムや現地学生との交流など私にとってとても大きい経験になった。今回の研修ではタイの文化を初めファッションや料理、お寺などバディの交流を通して学ぶことができ

た。また、バンコクを訪れた時は、有名な観光地や大きなショッピングモールなど観光することができた。しかし、タイの交通機関は日本よりも便利ではないし、店員さんも無愛想な人もいて日本の良さを改めて実感することができた。だが、引率のケビン先生を初め私達みんなで話し合い無事に観光することができたことは、とても良い経験でもあり、次海外に行くときの勉強にもなった。

私は、バディ達の姿勢を見てもっと積極的に間違いを恐れず行動するべきだと学んだ。自分は、失敗を恐れ行動することができないことが多い。また、行動しても人と比べてしまい自信を無くしてしまう。そのような性格だったのだが、バディ達は間違いを恐れず学んだ日本語を積極的に話しかけてくれて自分も見習わないといけないと感じた。今後社会人になっても自信を無くしてしまいネガティブな気持ちになると思うが、この研修を思い出し、めげずに行動し学びの姿勢を大事にしていこうと思った。

今回の研修で、より海外に興味をもったので他の国にも行きたいと感じた。

Thailand Study Abroad Report #5

人間科学部　教育学科　4 年

１．　はじめに

私が今回タイ研修に参加しようと思ったきっかけは、日本に交換留学生としてタイから来ていた学生のバディをやっていたためである。私は以前も海外研修に参加していたが、英語圏の国にしか行ったことがなかったため、英語以外には興味を持っていなかった。しかし、留学生と関わることにより、もっと他の国のことも知りたいと思うようになった。

２．　事前研修の内容

事前研修においては、ひとりひとりがそれぞれのテーマを選定し、日本とどのように異なるのか、それらをどのように調べるかについて、担当の先生の助言を得ながら行った。私が研修で調べるテーマについては、日本とタイの学校給食の違いについて調べることにした。このようなテーマにした理由としては、私は大学卒業後に学校の教員となるため、教育関連に関わることについて調べたいと思ったためである。

３．　研修中に調べたこと

私は今回タイの学校給食を調べるにあたり、主に 3 つの観点から調べることにした。1 つ目に「学校給食に地域の食べ物は使われているのか」、2 つ目に「学校給食にタイの伝統料理は使われているのか」、3 つ目に「海に近い場所は魚が使われているのか」である。調べ方としては、現地でバディにインタビューをしたり、大学に付属している小学校に行く機会があったため、実際に児童の給食を見たり、給食を作ってくださっている方にインタビューを行った。それぞれ研究結果を紹介していこうと思う。

1 つ目と 3 つ目の観点については、現地に行った際に似たようなテーマであると感じたため、「チェンマイ」、「バンコク」、「プーケット」にはどのような給食の違いがあるのかについて調べることとした。バンコクのような都市ではどのような給食が出されるのか、また、プーケットのような有名なリゾート地では海鮮系が多く使われているのかなどの考察を立てた。このテーマについては、主に学校給食を作って下さっている方にインタビューを行うことで、研究結果を得ることが出来た。お話によると、チェンマイやバンコクの給食には大きな違いはなかった。しかし、一番驚いたことはプーケットは全体的に味が濃いということである。マレーシアに近いという土地柄、香辛料が多く使われているということであった。日本と同じように、場所によって給食にもバリュエーションがあるのは興味深いものであった。

2 つ目については、バディに小中学生の時にタイの伝統料理を使った給食を食べたことがあるかをインタビューした。「カオマンガイ」、「カノムチーン」、「カイパロー」とバディ達がとても楽しそうに教えてくれた。伝統料理はどれもタイ人にとって嬉しい給食の 1 つであるようで、これも地域によって若干異なるそうだ。こちらの研究結果においても日本

と同じように、地域ごとの伝統料理が給食で楽しまれているということが明らかになった。

カオソーイ

タイの給食の配膳の様子

バディが食べていた芋虫

４．現地での交流活動

ここでは、主にバディというタイで日本語を学んでいる学生との交流について紹介しようと思う。チェンマイでは私たち日本人に対してバディが 2～３人ほどつき、現地でのプログラムをサポートしたり、一緒に買い物をしたりなど、１日体制で私たちと行動を共にした。私のことを担当してくれたバディはあまり日本語が得意ではなかったが、私の現地での生活や学びが充実するようにいつもサポートをしてくれた。私はこれまでにフィリピン、アメリカと研修を経験し、今回のタイ研修は３回目の研修であった。それぞれの研修にそれぞれの良さはあるが、私はタイ研修が一番バディとの交流を深めることができたと感じている。本当に友達よりより大きな存在である家族のような関係だったのではないかと思う。バディとの関係がこの研修きりで終わってしまうのではなく、これからもお互いに有意義な時間を過ごしていきたい。

タイの友達

私のバディ

５．　まとめ

私は今回のタイ研修を振り返ってみた時に、改めて今回の研修に参加して良かったなと感じることができた。当初タイ語が全くできない私にとっては不安要素が多い研修になるのではと思っていたが、バディのあたたかさであったり、みんなでタイを全力で楽しむメンバーのおかげで充実した時間を過ごすことができた。私は４月から学校の教員になるが、タイ研修で学んだ多くの経験をこれからの教員生活に何か少しでも活かしていければと思う。

Thank you to all of our new friends at Chiang Mai Rajabhat University!

Until we meet again!

また会える日を楽しみにしています～！